

教員の受賞・研究成果

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。<2023年11月~2024年6月>
教員の身分は、記事掲載時の情報です。

商学部教授 羽田尚子 研究・イノベーション学会の論文賞を受賞

商学部教授羽田尚子が、研究・イノベーション学会の2023年度論文賞を受賞しました。本研究は、『第4回全国イノベーション調査』と財務・企業情報を接合したデータベースから、研究プロジェクトを中止・遅延した企業の特徴がイノベーションに成功(失敗)しやすい企業の特徴と一致しているか、中止・遅延を経験した企業のプロダクト・イノベーションの実現頻度が類似の特性を持つ未経験の企業と比べて高い(低い)かを明らかにしています。

受賞論文名:
「プロジェクトの中止又は遅延がイノベーション活動の生産性に及ぼす影響:『第4回全国イノベーション調査』による定量分析」(研究・技術・計画, 37(4), 488-500, 2023年)
受賞日: 2023年11月22日



国際情報学部教授 平野晋 令和6年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞

国際情報学部教授平野晋(国際情報学部長)が令和6年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞しました。本表彰は、電波利用や情報通信の発展に貢献した個人や団体に対して総務省が行うものです。平野教授は、内閣府の「人間中心のAI社会原則会議」の構成員や総務省の「AIネットワーク社会推進会議」の副議長、「AIガバナンス検討会」の座長を務め、国内外のAI関連のガイドラインの策定に大きく貢献しました。本表彰では特に「AIガバナンス検討会」座長としての活動と「AI事業者ガイドライン」の取りまとめが評価されました。表彰式は2024年6月3日に帝国ホテルで行われ、松本剛明総務大臣から表彰状を授与されました。



理工学部教授 鈴木教和 2023年度精密工学会論文賞を受賞

理工学部教授精密機械工学科鈴木教和が「2023年度精密工学会論文賞」を受賞しました。この賞は、最も独創性に優れ、工学および工業的価値が高いと認められる論文の著者に対し、学術研究を奨励し、精密工学に関する学術の発展を促進することを目的として贈賞されます。
受賞論文名: Parameter identification for linear model of the milling process using spindle speed variation
受賞発表日: 2024年3月13日



理工学部教授 國井康晴 開発した超小型天体観測用ローバ「LEV-1」が月面活動を実施 ~約38万kmの彼方から地上との直接通信に成功するなど世界初の快挙~

2024年1月20日(日本時間)、理工学部電気電子情報通信工学科教授國井康晴らが宇宙航空研究開発機構(JAXA)および東京農工大学と共同開発した超小型天体観測用ローバ「LEV-1」が、月面での活動に成功しました。「LEV-1」は、月面に着陸間際の小型月着陸実証機「SLIM(Smart Lander for investigating Moon)」から分離されて約38万km彼方の月面に到着し、地球までデータの直接通信に成功した世界最小・最軽量の観測機となりました。加えて、月面での跳躍移動、月面ロボット間通信、完全自律機能も実現したことは、世界初の快挙と言えます。現在、國井教授は、内閣府ムーンショット型研究開発事業の目標3「2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現」において「未知未踏領域における拠点建築のための集団共有知能をもつ進化型ロボット群」のプロジェクトマネージャを務めています。今回の「LEV-1」の成果は、月面探査の実現に向けたロボット開発に活かされます。



写真(左):「LEV-1」開発時の試作機「Hopping Rover」(地球上での実験環境で撮影)
写真(中):「LEV-2(通称:SORA-Q)」が撮影・送信した月面画像
(画像提供:JAXA/タカラミネ/ソニーグループ(株)/同志社大学)

理工学部教授 坪井陽子・助教 米山友景 軟X線撮像装置Xtendによる未知のX線天体発見プロジェクトを始動~日米欧による国際共同ミッション「XRISMプロジェクト」として主導

理工学部物理学教授坪井陽子は、軟X線撮像装置・Xtendの広視野を生かして未知のX線天体を発見する「Xtend Transient Search (XTS)」を発案し、最新鋭の観測機器を搭載した日米欧共同開発のX線分光撮像衛星・XRISMのプロジェクトとして主導しています。XTSプロジェクトには、助教米山友景、根本登(当時:理工学研究科 物理学専攻 博士前期課程2年)、赤須孔一郎(当時:理工学部 物理学専攻 博士前期課程2年)、新天体探査プログラムの開発を率えています。XRISMは、2023年9月7日(日本時間)にJAXAの種子島宇宙センターから打ち上げられ、衛星搭載機器の立ち上げや性能検証を含む4カ月間もの初期運用を経て、2024年1月5日(日本時間)にXtendや軟X線分光装置・Resolveによるファーストライト観測データを公開。Resolveの高い分光性能を実証しました。XRISMの今後の成果にご期待ください。

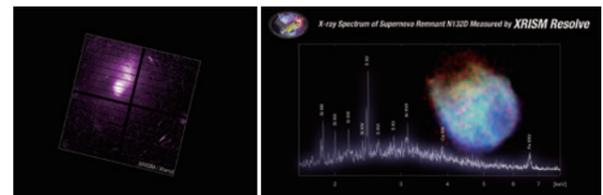


図1(左):XRISM/Xtendで撮影した銀河団Abell 2319のX線写真。2つの銀河団が衝突している。(画像提供:X線(JAXA))
図2(右):XRISM/Resolveで取得された大マゼラン雲にある超新星残骸N132Dのスペクトルと、XRISM/Xtendで撮影されたN132DのX線写真。N132Dの太陽系からの距離は約16万3000光年。(画像提供:JAXA)

理工学部教授 山村寛 B-DASHプロジェクトによる実規模施設が気仙沼市に完成

中央大学研究開発機構「水・汚泥処理の脱炭素化・DX化・高度化ユニット」(ユニット長:理工学部教授山村寛)を含む共同研究体にて実施しているB-DASHプロジェクトについて、実規模施設として下水汚泥の超高温炭化炉が気仙沼市に完成しました。2024年3月19日に竣工式が執り行われ、共同研究体の各社の他、国土交通省や気仙沼市の多くの関係者が出席しました。地元メディアの取材もあり、本研究への期待が寄せられています。



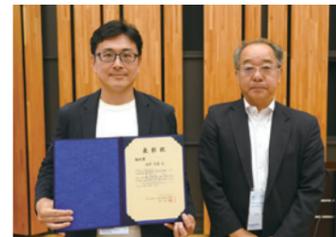
理工学部准教授 岩崎有紘 「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」で若手科学者賞を受賞

理工学部応用化学科准教授岩崎有紘が、文部科学省による「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」を受賞しました。この賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に文部科学大臣が授与するもので、「科学技術賞(開発部門、研究部門、科学技術振興部門、技術部門、理解増進部門)」「若手科学者賞」「創意工夫労者賞」「研究支援賞」が設けられています。岩崎有紘は、海洋ラン藻由来の新規天然物の構造と生物活性に関する研究について業績が認められ、「若手科学者賞」100名のうちの1人として授与されました。
受賞日: 2024年4月9日



理工学部准教授 酒折文武 日本計算機統計学会論文賞を受賞

理工学部数学科准教授酒折文武が、一般社団法人 日本計算機統計学会 2023年度学会賞(論文賞)を受賞し、日本計算機統計学会第38回大会内で行われた総会にて表彰されました。
受賞論文名: ゼロ変形交差一般化幾何分布と卓球の打球回数への応用



理工学部助教 李恒 「令和5年度コニカミノルタ画像科学奨励賞(優秀賞)」、「第20回 飯島奨励賞」を受賞

理工学部電気電子情報通信工学科助教李恒が、「令和5年度コニカミノルタ画像科学奨励賞(優秀賞)」と「第20回 飯島奨励賞」を受賞しました。前者は、「ミリ波-赤外光帯のオンサイト非破壊検査の実現に向けたカーボンナノチューブ積層型撮像パッチシートの創出」、後者は「Compositional device design strategy of carbon nanotubes photo-thermoelectric imager sheets」の題目に対して授与されました。



受賞トロフィーとコニカミノルタ株式会社内で行われた授賞式の様子。前列左から1人目が財団の松崎理事長、4人目が李助教。(写真提供:(公財)コニカミノルタ科学技術振興財団)



記念オブジェと名古屋大学(野依記念学術交流館)で行われたAward Ceremonyの様子。左:飯島澄男先生、右:李助教(写真提供:フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会)

研究開発機構機構教授 柴山知也 「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」で科学技術賞(理解増進分野)を受賞

研究開発機構機構教授柴山知也は、「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解増進分野)」を受賞しました。この賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に文部科学大臣が授与するもので、「科学技術賞(開発部門、研究部門、科学技術振興部門、技術部門、理解増進部門)」「若手科学者賞」「創意工夫労者賞」「研究支援賞」が設けられています。柴山知也は、沿岸災害対策への理解増進について業績が認められ、「科学技術賞(理解増進分野)」9件18名のうちの1件(1名)として授与されました。
受賞日: 2024年4月9日

